

工事安全パトロールにおける 笑顔のコミュニケーション活動 (協力会社とともに築く安全文化)



2026年3月2日



住友共同電力株式会社
SUMITOMO JOINT ELECTRIC POWER CO.,LTD.

会社概要



本社・新居浜西火力発電所

設立 : 大正8年2月（1919年2月）

資本金 : 30億円

人員 : 約380人
（グループ会社等への出向者含む）

事業内容 : 電気、蒸気および純水の供給
ガス（工業ガス等）の供給および販売

保有設備

1. 火力発電所 4 箇所（石炭火力、一部木質バイオマス混焼、LNG発電）

①新居浜東火力発電所	29,600kW	（1、2号）
②新居浜西火力発電所	225,000kW	（1～3号 2号を除く）
③壬生川火力発電所	250,000kW	
④新居浜北火力発電所	147,800kW	（1～3号）

2. 再生可能エネルギー

■水力発電所 11 箇所 計 83,110kW

愛媛県	東平発電所	
	山根発電所	6,700kW
	兔之山発電所	8,000kW
	黒瀬発電所	2,000kW
	大保木発電所	3,160kW
高知県	小美野発電所	1,000kW
	高藪発電所	15,600kW
	大平発電所	150kW
	仙頭発電所	7,100kW
	川口発電所	7,200kW
	五王堂発電所	12,200kW

○太陽光発電 1 箇所 1,000kW

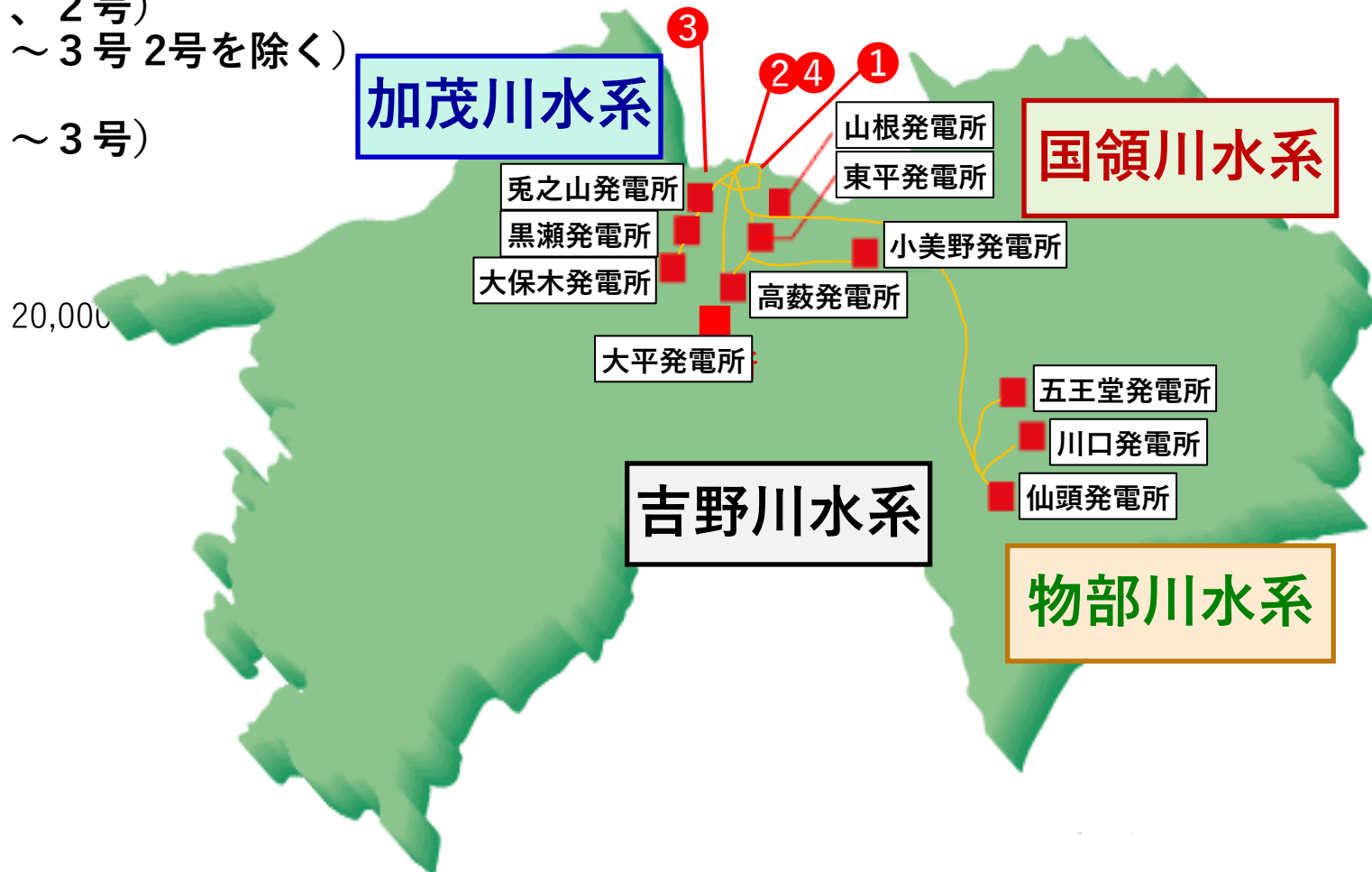
（壬生川火力発電所構内設置）

○川崎バイオマス発電所 33,000kW

○紋別バイオマス発電所 50,000kW

3. 送配電設備

総延長 約320km



カーボンニュートラルへの取組み（CO2排出量削減）

西火力3号機 炭酸ガス製造設備



西火力3号機の排ガスから炭酸ガスを分離回収し、住友化学(株)愛媛工場のメチオニン製造設備の副原料として供給

炭酸ガス製造能力：48,000 t /年
2018年7月より供給開始

バイオマスの利用拡大



未利用材、建築廃材、剪定木くずなどをバイオマス燃料として利用
ナッツ殻、もみ殻など、その他のバイオマス燃料について利用拡大を図っている

安全基本理念

「安全をすべてに優先させる」

安全衛生スローガン（2024-2026）

【ルール遵守の徹底と、協力会社と一体となった安全活動で、
完全ゼロ災を達成する！】

2025年度 安全衛生管理計画

【重点取り組み】

- ① 安全文化のレベルアップ（法令および社内安全ルール遵守の徹底）
- ② 協力会社委託業務の基盤強化
（協力会社とのパートナーシップを活かした安全衛生活動の推進）
- ③ 危険感受性および安全衛生意識の底上げ
- ④ 化学物質管理の強化
- ⑤ 過去災害情報の活用

以降、日化協レスポンシブル・ケア賞に推薦された
当社の取組みについてご紹介いたします

1. 笑顔で対話する工事安全パトロール（2024年4月～）

2023年3月 火力発電所のボイラ煙道清掃工事において、2次下請け協力会社作業員の墜落死亡災害が発生

原因究明と再発防止対策の検討

二度と痛ましい災害を発生させないため、強い決意を持って本質的な原因究明を行い、再発防止対策を確立することとした。また、抜本的な安全活動の見直しが必要と判断

疑問？

事故発生場所はボイラ煙道の内部、自ずと安全管理は1次下請け協力会社に依存していたが、発注者、元請け、下請け協力会社の中に十分なコミュニケーションはあったのか？
この作業において、現場の心理的安全性は確保されていたのだろうか？

外部コンサル会社を入れての評価診断

外部コンサルに協力会社とのパートナーシップと安全活動の評価を委託



一部、当社グループに傾聴不足の傾向があり、協力会社が言いたいことを言えない関係がある。特に2次、3次と下請けが進むにつれ、当社グループ担当者と協力会社のコミュニケーションが不足しており、双方向の会話がなされず、心理的安全性が構築されていないとの指摘を受けた

課題

2次、3次下請け協力会社とのコミュニケーション

異業種からの学び

2次、3次下請け協力会社とのコミュニケーション、心理的安全性の構築について、対策に苦慮していた折、当社事業所構内で活動している健康飲料販売員からヒントを得る

商品を手渡す際、体調面で気になる点を尋ねたり、健康の話題を投げかけたり、相手を思いやりやる気持ちを持って、**明るい笑顔で声掛け**しながら健康飲料を一人一人丁寧に対応している

…この姿勢こそが安全活動に必要な要素（コミュニケーション）ではないか！

健康飲料販売会社の「あ・か・さ・た・な」

あ：明るい笑顔で挨拶

か：感じのよい言葉づかい

さ：さっぱりとした服装、身だしなみ

た：大切なお約束（※約束を守り信頼を得ること）

な：何気ない気配り

安全パトロールへの展開

安全パトロール員は、現場の安全を守るため、厳しい口調で是正を指示してしまいがち

このコミュニケーションスキルを安全パトロールに取り入れれば、現場の最前線で働く、2次、3次下請け協力会社作業員と気持ちを伝えあい、双方向の良いコミュニケーションが生まれ、現場の心理的安全性が高まるのではないか

健康飲料販売会社とのコラボレーション

工事安全パトロールを、笑顔で「ご安全に！」の声掛けをしながら巡回し、安全に関する行動をできるだけ褒め、安全褒賞として、健康飲料の無料引換券をお渡しすることとした

当社グループ

工事安全パトロールにおいて、大きな声と笑顔で「ご安全に！」の声掛けをしながら巡回し、

- ・笑顔で「ご安全に！」の挨拶を返していただいた方
- ・作業前KYが優れている協力会社
- ・現場の3Sが行き届いている協力会社
- ・その他安全において模範となる行為をされている方に対し、

- ① 褒め、労い、双方向の会話をする
- ② 健康飲料無料引き換え券を感謝の気持ちを込めて手渡しする

健康飲料販売会社

当社事業所構内にブースを設置し、昼休みに商品の効果を説明しながら健康飲料の無料引換と販売を実施

- ・ **コミュニケーションの活性化**
- ・ **現場の心理的安全性の構築**
- ・ **安全意識向上、現場の安全文化醸成**
- ・ **安全と安全の土台となる健康の提供**

笑顔は健康にもよい！



笑顔で安全！健康増進！



取組み成果

1. 協力会社の労働災害発生状況（定量的評価）

本取組みについての検討を開始したのが2024年4月、本格的に開始したのが2024年10月であり、評価期間は短いですが、2024年10月以降、当社の火力発電所の工事等において、無災害を継続

2. その他の評価（定性的評価）

- ・「ご安全に！」の挨拶が活発に交わされ、会話が増えて現場が明るくなった
- ・協力会社作業員および住友共同電力グループ従業員の安全意識が向上した
- ・現場作業エリアの3S状況が改善している
- ・協力会社作業員から安全に対する意見が出るようになり、現場の心理的安全性が高まっている

今後の展開

今後も、当社設備の大型工事において継続的に実施するとともに、当社グループの住共エンジニアリング(株)が外部から元請として受注した工事においても積極的に展開していく
(神奈川県川崎市、徳島県津田町で現地の健康飲料販売会社とコラボレーション実施)

特集 I

寝めるパトで 安全文化醸成目指す

協力会社作業員と関係性深化へ

異業種のコミュニケーション術に学ぶ



住友共同電力グループ

住友共同電力㈱（本社：愛媛県新居浜市）は、重大災害の発生をきっかけに協力会社とのコミュニケーション不足を認識し、元請けから感謝を伝え、当たり前前の行動を寝める安全パトロールを展開している。異業種である 販売㈱が実践する

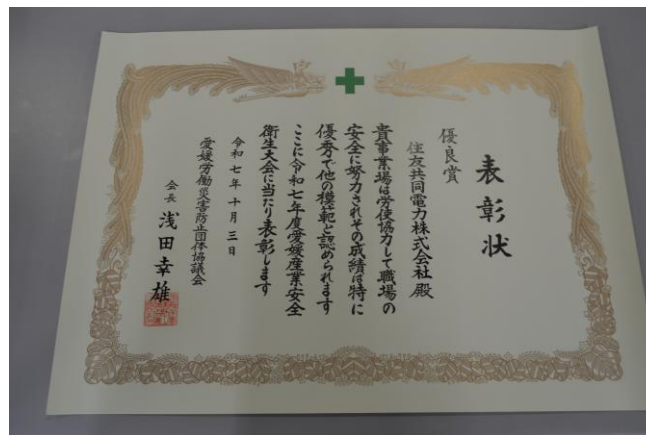
の「あ・か・さ・た・な」に学び、現場内の風通しの良い雰囲気づくりに努め、心理的な距離を縮めて意見を言い合える関係性をつくる。KY指導や安全衛生協力会活動、危険体感教育といった取組みを通じて、協力会社作業員の知識、危険感受性向上も支援するなど、発電所全体の安全文化向上へさまざまな施策を進めている。（編集部）

ゼロ災害を目指して活動を展開

1919年に住友事業の電気部門として設立され、以来100年以上にわたり住友グループ各社への電力供給を担ってきた同社。火力発電所4箇所（愛媛県）、水力発

電所11箇所（愛媛県、高知県）を持ち、現在は四国電力への電力供給も行い、広く地域の電力需給を支えている。

発電所の操業にあたっては、「安全をすべてに優先させる」を基本理念に掲げ、安全衛生部会がグループ全体の活動を統括する。作成した安全衛生管理計画に沿って、



2025年10月3日、愛媛産業安全衛生大会にて、
愛媛労働災害防止団体協議会会長表彰「産業安全 優良賞」
を受賞

2. 協力会社のK Yシート添削（2025年4月～）

当社設備の工事等においては、工事グループ（協力会社）毎に、以下のとおりK Yを実施することを原則としている

①作業前に ②現場で ③全員参加で

問題点

- ・ K Yを実施せず、協力会社工事責任者が、事務所で、K Yシートを作成するケース
- ・ K Yを実施せず、過去に実施したK Yシートのコピーを使うケース
- ・ 全員参加ではあるものの、事務所や詰所でK Yを実施するケース
- ・ 形だけのK Yになっており、本質的な危険のポイントが出されていないケース

作業前K Yの定着とレベルアップに向けて

- ①グループ会社であり工事元請の住共エンジニアリングの各工事責任者に対しK Y教育を実施
- ②K Y能力を有する作業責任者・安全専任者が現場を巡回し、協力会社のK Y実施状況を確認
- ③協力会社の工事責任者に対し、安全指導、K Y指導を実施
- ④協力会社作業責任者が現場の作業員に安全指導、K Y指導を共有し実践

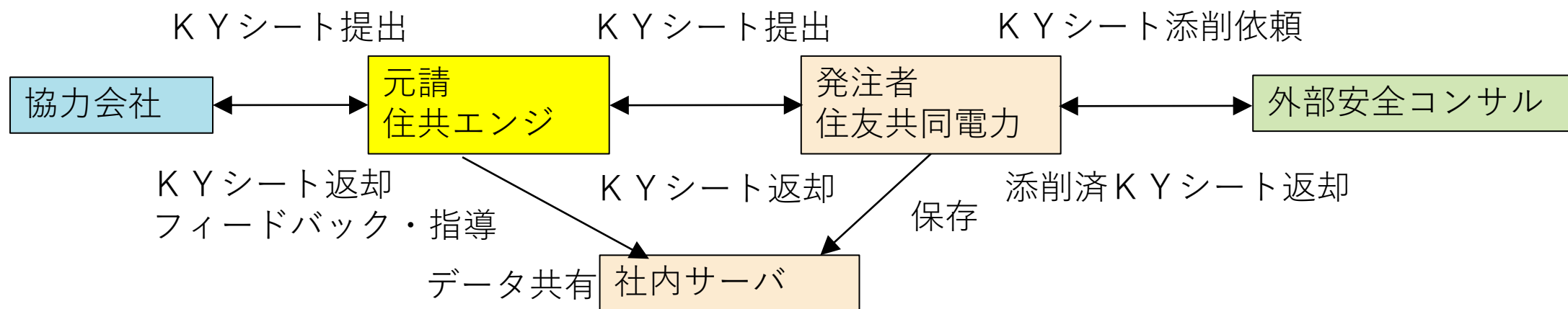
作業前K Y実施が定着し、協力会社のK Y内容もレベルアップしているものの

- ・ 協力会社により安全意識レベル、K Yレベルに差があり、低い協力会社が存在する
- ・ 安全弱者の存在は労働災害が発生するリスクとなる

(平均点での考えではなく、底上げが重要：**誰一人取り残さない**安全活動)

安全意識・K Yレベルの更なる向上を図るため、K Yシートの修正点を視覚化

外部安全衛生コンサルタントに依頼し、協力会社のK Yシートの添削を実施



添削済K Yシートを社内サーバに保存
今後の教育・事例共有に活用

KYシート添削例

現場KYシート		B本体		7年9月22日							
作業名		東4B 灰出し清掃工事									
現場代理人氏名		松下 幸助									
作業員名		武田	藤	登	和	鈴	植	三	浅		
健康状態	○	健康状態	○	○	○	○	○	○	○	○	
健康状態記入例 ○：異常なし ×：異常あり※ ※作業に就かせないなどの対応をとること											
危険のポイント						私たちはこうする					
「～が、～なので」+「～して」=「～なる」 (不安全な状態) + (不安全な行動) = (災害の型)						「～は、～の時は、～を」 (何をどのくらい、どの程度、実施するか)					
安全	・ <u>外気温湿度が高い中で熱がこもっている室内で</u> <u>ヤッケを着用して</u> 灰出し作業なので <u>熱中症になる</u>					・ヤッケを着用して作業をする際は <u>時間を決めてこまめに休憩を</u> とし <u>水分塩分を十分に補給しよう</u>					
	・ <u>槽内で作業なので</u> <u>測定前に入槽して</u> <u>酸濃度</u> <u>測定前に入槽して</u> <u>欠乏症となる</u>					・槽内入槽時は測定記録用紙を視認し <u>槽内酸濃度20ppmを確認しよう</u>					
	・ <u>ホース引き回し時</u> <u>周辺設備にぶつけ</u> <u>破損</u>					・ <u>周囲の安全確認を十分行う</u>					
	ワンポイント 安全 <u>こまめな休憩 水分塩分補給</u> ヨシ!					品質 <u>周囲の安全確認</u> ヨシ!					
作業責任者 重要確認事項 <u>Good!!</u>						チェック		作業責任者サイン			
・全ての作業員にコンガストローム型AH内部作業の危険性とLOTO管理の重要性を説明し、該当AHのLOTO管理状況を確認した。						=		KYの確認・指導			
・全ての作業員に高所作業の危険性について説明し、墜落防止対策がとられていることを確認した。						=		9/22 日野			

- モチベーションUPのため、
- ・わかり易く赤文字で追記・修正
 - ・GoodポイントにはGood文字を
 - ・出来が良いシートには花丸を

2025年4月に開始以降、約450枚のKYシートを添削

KYレベルが着実に向上しているとの安全コンサルの評価

3. 協力会社向け危険体感教育（2024年4月～）

2022年度に協力会社の墜落死亡災害と社員（住共エンジニアリング株）の重大災害が発生
いずれも安全基本ルールを遵守していれば防げた事故、以下が急務であると痛感

- ・ 誰一人取り残すことなく安全意識を高めること
- ・ ルール不遵守を許容しない安全文化を醸成すること

その施策の一つとして、自社で設備を設けて自社運営することを決断

…外部受講と比較して、柔軟に幅広く教育することが可能

当社グループの工事、作業等で発生しうる危険をベースに体感設備を選定、2023年11月竣工

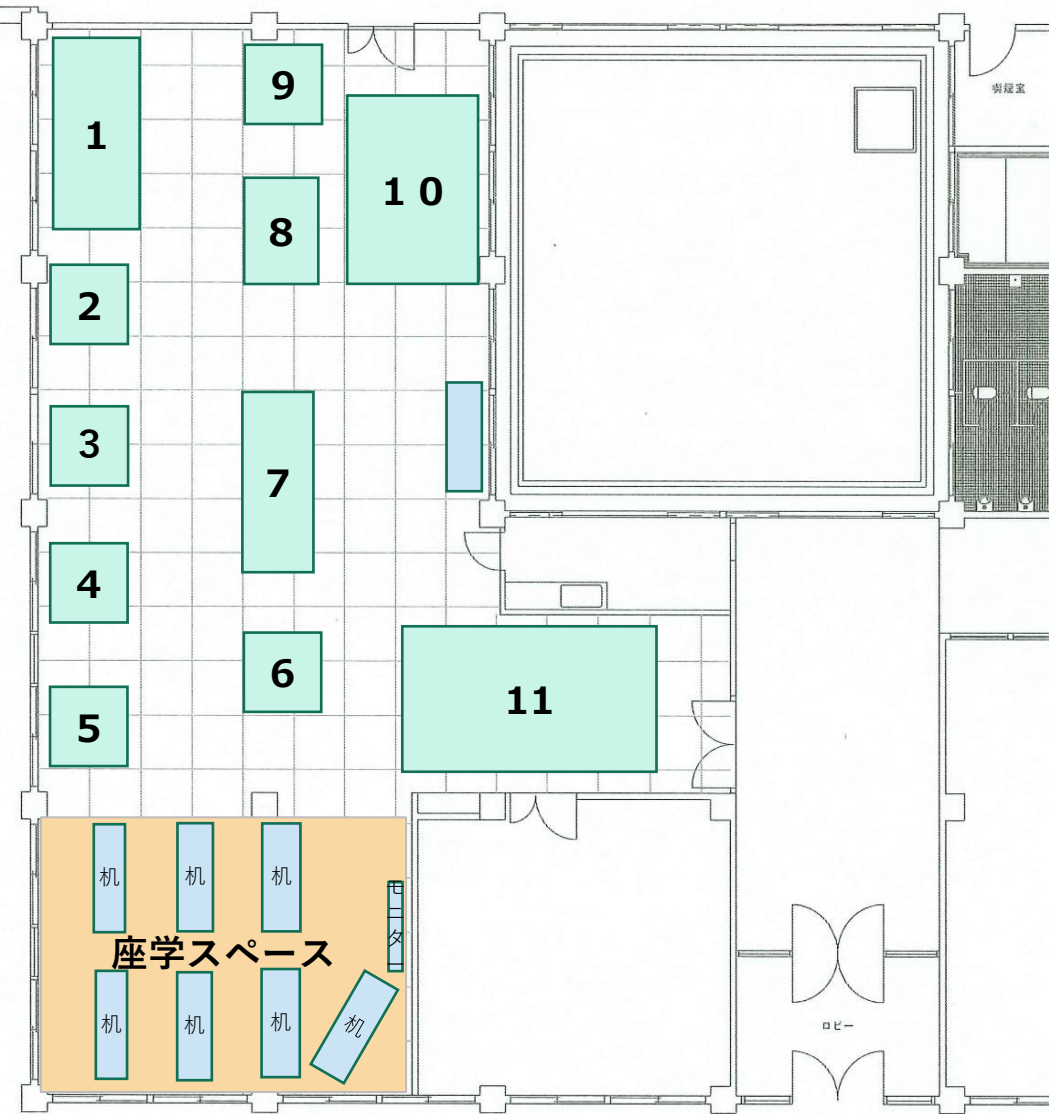
時期	内容	備考
2023年11月	危険体感教育開始	当社グループ現業部門対象
2024年4月	協力会社作業員を教育対象に拡大	安全衛生協力会に案内
2026年3月（予定）	当社グループ全従業員を対象に拡大	事務部門、派遣社員など

毎週水曜日に開講し、第3水曜日は協力会社向の実施日

1回あたりの受講者数を4名とし、全従業員が3年毎に受講する計画としている

2026年1月末時点での受講者数：当社グループ従業員 260名 協力会社作業員 56名

危険体感設備のレイアウト



- ①墜落制止用器具吊られ体験
- ②挟まれ巻込まれ 1
- ③挟まれ巻込まれ 2
- ④重量物等の落下
- ⑤グラインダー暴れ・弾かれ
- ⑥感電・過電流・トラッキング
- ⑦階段歩行・手すりぐらつき
- ⑧脚立ぐらつき
- ⑨液飛散
- ⑩透明配管液抜き確認
- ⑪VR体感スペース



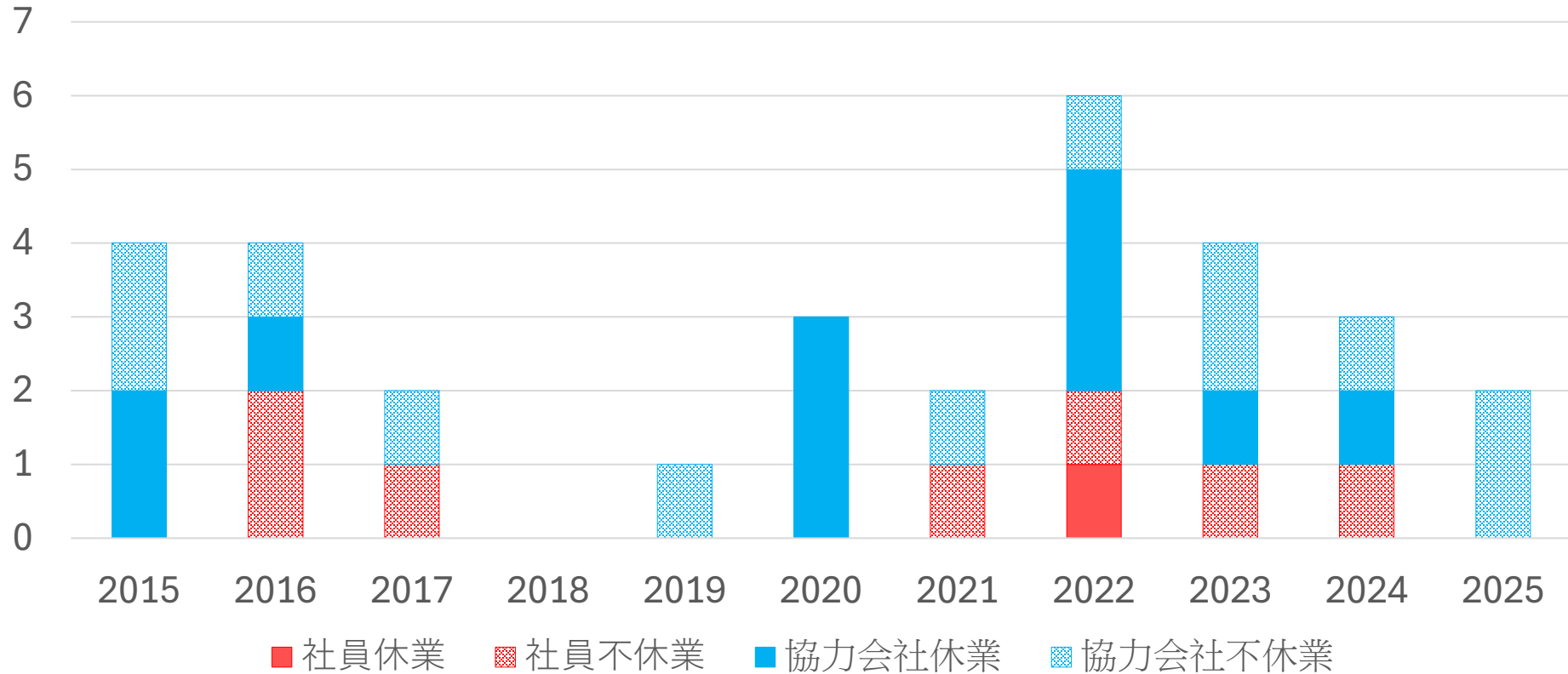
サブスクリプションサービス契約
(各種コンテンツ使い放題)

- ・仮設足場からの墜落
- ・盤内作業中の感電
- ・電柱金物取付作業
- ・階段荷物運搬中の転落
- ・可搬式作業台、脚立作業、梯子作業中の危険 など



労働災害発生件数推移

労働災害発生件数（2015～2025年度）



※2024年10月以降に発生した協力会社労働災害は、水力発電所工事での不休業災害1件、
剪定作業中の不休業災害1件のみ 火力発電所の工事等では発生していない

ご清聴ありがとうございました

「安全をすべてに優先させる」

ご安全に！

